

年 組 名前：

ち ほうびょう れきし こうせい けんきゅうかい せつりつへ
地方病の歴史 後世に 研究会設立へ

かつて山梨県内で流行した地方病（日本住血吸虫症）と、
 感染症をなくすために取り組んだ地域の歴史を後世に伝えようと、
 特に被害が大きかった中巨摩地域の元教員らが5月27日、「地方
 病教育推進研究会」を設立します。元患者が高齢化し、地方病
 の歴史を語る人が少なくなる中、資料館「昭和町風土伝承館
 杉浦医院」や元県職員らと準備を進めてきました。研究会では、

昔の授業で子どもたちが聞き取った患者の体験談や、住血吸虫が寄生する宮入員を取り除く薬をまくための器具、宮入員がすめないようコンクリート



かつて患者が通い、今は伝承館として杉浦親子と地方病の歴史を伝える「杉浦医院」＝昭和町西条新田

化した水路の写真など、資料を集める予定です。小中学校で
 前授業も行い、地域で乗り越えた感染症の歴史を伝えていき
 たいとしています。

(2023年5月11日付 山梨日日新聞 週刊こびっと10面)

問1 「地方病教育推進研究会」は、なにをなくすために取り組んだ地域の歴史を伝えるために
 設立されますか。

..... と

問2 設立の準備は、だれが進めていますか。

.....

問3 研究会は、どのような資料を集める予定ですか。

器具：

写真：